

グループ桂台通信

第186号 2013年3月
発行 グループ桂台
責任者 中村涼子
電話・FAX 894-2735

[グループ桂台は生活支援の非営利団体です]

事務所: 〒247-0034 横浜市栄区桂台中 15-3

湘南桂台自治会事務所内

URL <http://www.katuradai.com/katuradai.html>

目次

- 1面: 「担い手の育成・発掘に関する取り組み」について
- 2面: 親でもない、先生でもない、第三のおとなとして
地域の子ども支援を考える
- 3面: 健康アドバイス わがまちの名医から 糖尿病 (その5)
- 4面: 2月度活動実績、ひとりごと他

平成24年度栄区ボランティア・市民活動団体分科会研修会 「担い手の育成・発掘に関する取り組み」について

2月18日、栄区社会福祉協議会において、ボランティア・市民活動団体分科会の研修会が開催されました。席上、ボランティア活動の事例発表として、鶴見区市場地区の活動実態の紹介があり、また栄区の活動事例として、グループ桂台の取り組みについて下記の通り発表し、提言をいたしました。

1. 発足後15年を経過して、活動の担い手である協力会員の高齢化が進む一方、その世代交代が思うようにゆかず、将来的に活動維持についての不安をのこす点が顕著になってきた。
2. そのために、「5年後検討会」を発足してグループ内で議論を深めたが、残念ながら、担い手の高齢化に対する有効な対策は今のところ見出されていない。
3. 一方、地域住民の一層の高齢化に伴って、介護保険に至る以前の生活支援需要、あるいは、介護保険では対応できないような、きめ細かな生活支援の需要、など一層高まるのではないかと考えている。
4. これから目指す方向として、①地域に根差した生活支援の活動は絶やすことのなきよう努めること ②地域の空き家を何とか活用して、200メートルに1軒の拠点づくりを考えたい ③活動の担い手の確保に引き続き努めたい ④自治会やシニアクラブとの活動連携を密にして、活動の柱にしてゆきたい、などの事項を考える。

この日、もう一方の事例となった鶴見区市場地区ですが、高齢化率16%、若い世代が今もって増え続けている地域で、小学校の校舎の増築も活発とのこと。一方、栄区桂台地域のように44%と高齢化が著しい地域とでは、ボランティア活動の実態が大いに異なるようです。

このように地域の特性がまったく正反対な地域相互で、たがいに補完できるような活動が可能かどうか、どのような活動が具体的に考えられるのか、などについて横浜市のような高いレベルからの検討が必要な時期になったのでは、という印象でした。

(編集部)



親でもない、先生でもない、 第三のおとなとして地域の子ども支援を考える

子育て応援講座（主催 栄区こども家庭障害支援課）を聴講しました。
講師はNPO法人 よこはまチャイルドライン理事の徳丸のり子さんです。

最初に区役所の担当者から「今時の養育者の状況」についての話がありました。それによりますと、児童虐待は年々増加の方向で、栄区では23年度、28件の報告があったそうです。虐待の種類は身体的虐待、心理的虐待、保護の怠慢などで、虐待者は実母が43.6%、実父が30.6%とのこと。

近所付き合いの希薄化が進み、生活面で協力し合える関係は浅く、住民の多くが孤立化し不安感を持つ親が増えているとのことでした。

NPO法人 よこはまチャイルドラインは、18歳までの子どもが、誰かと話したいときにかけることができる電話です。基本姿勢は子どもたちのありのままを受け止めることです。「どんなことでもいいよ、話してね、という姿勢で、うれしいとき、悲しいとき、悩んでいるとき、困ったとき、何となく誰かと話したいときなどにかけてみてください」と伝えています。（毎週月・木曜日 16時～21時 TEL 0120-433-339）



以下は徳丸講師の話です。

現代の子どもたちは、体力の低下、学力の低下、コミュニケーション能力の低下、自己肯定感の低下、そして生きにくさを抱えています。「3人に1人が孤独を感じ」「毎日1.4人の子供が自殺している」「子供の7人に1人が貧困で」「中高生の2人に1人が、自分はダメな人間と思っている」という報告があります。

神奈川県の不登校児童生徒数（国・公・私立の小中学校）は、5年連続全国1位でしたが、昨年は東京都が1位になったので神奈川県は2位になりました。神奈川県内の中学生の26人に1人が不登校という報告があります。

このような子どもの危機的な状況を作り出したのは子どもではなく、すべてのおとなに責任があるのではないのでしょうか。

そこで今、親でもない、先生でもない、第三のおとなとしての役割が重要になってきています。親や先生は、子どもから見ると縦の上下の関係にいますので、どうしても子どもは威圧感を感じてしまいます。第三のおとなとは地域のおじちゃん、おばちゃん存在で、子どもからは斜めの関係にいます。近所の知り合いのおとなで、命令する関係ではなく、話を聴いたり、あいさつで声をかけたりしてくれる、そういうおとなの存在が今必要なのではないのでしょうか。

よこはまチャイルドラインも第三のおとなとして、子どもとの斜めの関係を保ちながら、日々様々な悩みを持つ子どもの電話相談を受けています。

グループ桂台は、育児で疲れているママの代わりに保育、見守り、家事の手伝いなどをしていきます。何かお困りの方は遠慮なくいつでもいらしてください。ご相談に応じます。

（中村）

わがまちの名医から

糖尿病（その5）

進藤医院院長 進藤捷介氏

前回、食事療法と運動療法をしても、糖尿病が改善されぬ場合は、薬物療法が必要になるとお話をしましたが、一回薬を飲んだら、一生やめられないと思っている方が多いようです。一生、薬を飲むとは限りません。早期に、きちんとした治療をして、すい臓の機能が正常化すれば、薬はいらなくなる事があります。

治療が遅くなると、元に戻らなくなり、一生薬を飲まなければいけない、本当の糖尿病になります。そうなれば、インスリンの注射による治療が、必要になることもあります。毎日、自分で、指先に針を刺し、血液を出して血糖を測定し、更に必要量のインスリンを腹や足に自分で注射しなければなりません。

最近では、初期の時からインスリンを使い、すい臓を休ませ、すい臓の機能を回復させて、すい臓の機能が正常化するのを待つのです。正常化したら、インスリンをやめ、薬物療法、運動療法に移行するなどの方法も始まっています。しかし、一生これと付き合わなければならないのです。

- ▶ 足がしびれ、感覚が鈍くなる。
 - ・ 素足でも、靴下を履いている感じになる。
- ▶ 水虫が出来、市販薬でも改善せず、医者に行っても、水虫が治らない。
- ▶ 白内障が出る。
- ▶ 目が見にくくなる。
 - ・ 新聞がよく見えず、読むのも面倒になる。
 - ・ 信号や標識が見にくい。
 - ・ 道であった人の顔が分からず、失礼してしまう。
- ▶ 光が目に入ると、レンズで光が乱反射して、とても、まぶしく感じる。
- ▶ 視野が狭くなり、周囲のものを見落とす。
- ▶ 柱や電柱などにぶつかる。
- ▶ 人ごみでは、人に気が付かず、人にぶつかる。
- ▶ つまづきやすく、転びやすくなる。
- ▶ 力が入らず、いつも横になりたい。だるい。
- ▶ すぐ座りたい。立っているのがつらい。
- ▶ おデキが出来やすくなる。
- ▶ にきびが出来、化膿しやすい。
- ▶ 飴をいつもなめている。なめたくなる。

こんな状態が、次第に進行し、目が見えなくなります。



次号に続く

会員のみな様へ

《 活動会員のチケット精算日 》
3月29日（金）午後1時～4時

《 講演会「無縁社会」を考える 》
～支え合う地域をめざして～

日 時：3月16日（土）午後1時～3時
講 師：板垣淑子氏（NHK おはよう日本
チーフプロデューサー）
場 所：小菅ヶ谷地域ケアプラザ 2F
多目的ホール
問合せ：896-0471



地域のみな様へ

《 ミセコン（店コンサート） 》
日 時：3月16日（土）午後2時から
場 所：イトーヨーカ堂桂台店 2F
第1部：フラダンス 「ハイビスカス」
第2部：マジック「さすらいのマジシャン」



活動報告

2月度会員数・活動実績
(平成25年2月28日現在)

会 員 数		
協力会員	利用会員	賛助会員
89名	102名	97名
活動実績	利用者数	14名
	活動員数	16名
家事支援（掃除・料理）	74件	93.5時間
介助（通院等）・介護	4件	6.0時間
その他	3件	7.5時間
合計	81件	107.0時間
事務局電話当番	19日	57時間

- 2/05 栄区子育て支援団体連絡会
- 2/07 サロン「ぷらっとオアシス」
- 2/09 ミセコン実行委員会
- 2/12 グループ桂台通信2月号発行
- 2/13 市社協ボランティア分科会
- 2/16 サロン運営委員会
- /16 ミセコン（店コンサート）
- 2/18 栄区社協ボランティア・市民活動団体分科会
及び研修会
- 2/20 コーディネーター会議
- 2/22 桂台地域ケアプラザボランティア分科会
- 2/28 協同健康講座「がんについて学ぼう」安達氏

ひとりごと

ゴールに向かって

先ごろ、「赤紙」ならぬ「オレンジ・ペーパー」が届きました。「後期高齢者医療被保険者証」です。あらためて、人生の最終コーナーを回りゴールに向かって残りの時間を考えさせられました。残りの時間はどれほど有るのでしょうか。平均寿命は、男性79歳、女性で86歳程です。

しかし、この寿命は0歳が基準で75歳の現在では少し変わってきます。今の年齢であと何年生きられるのかは、平均余命として示されています。75歳の平均余命は、この先男性11年、女性15年程です。女性の場合は90歳を超えます。まだまだ時間がありそうです。ところで、これらの寿命には一人で自立できない方、寝たきりなどの方も含まれています。



それでは家族や世間様のお世話にならずに、自立した生活ができるのは何歳ぐらい迄でしょうか。あくまで統計ですが、保険やさんの資料で「健康寿命」というものがあります。男性70歳、女性73歳程です。これとは別に、社会的な制約もあります。80歳を過ぎると何かと制約が付き、健康診断書・同意書・その他諸々の書類を求められることもあります。気ままに使える人生はあと5年、というより5シーズンしか有りません。短いような長いような5シーズンです。

ご褒美の人生をゴールに向かって楽しく過ごしたいものです。

Oh

編集委員：中村(涼)・佐藤(恵)・天明(清)・奥山・鈴木(靖)